信州大学 SHINSHU UNIVERSITY | 教育学部 附属長野小学校

２年２組

わたしとニコのくらし
～今日もいっしょだよ　ニコ～

ニコ、いらっしゃい！

待ちに待ったニコの迎え入れ。田中さんの軽トラックに乗ってやって来たトカラ山羊のニコ。「ニコー！」、「顔見えた！」「あ～かわいい～」と大喜びの子どもたち。創作曲「♪ニコ、いらっしゃい！」で大歓迎です。迎え入れの準備をしている間にニコが大きくなっていることを心配していたＩさんは、まだまだ小さいニコの姿に、「そんなに変わってない！」と安心した様子でした。

いよいよニコがトラックから降ります。子どもたちは、ニコを囲みながらそっとその様子を見守っていました。やがて、「小屋に入ってほしい」という思いが広がり、わたしが抱っこして連れていくことに。ニコが初めて小屋に入りチモシーを食べた時には、拍手が起きました。ニコを迎えるこれまでの日々が、一つ実を結んだ瞬間だったように思います。そして、初めてのうんち、おしっこにも大興奮。ニコの行動一つ一つに喜びや驚き、愛おしさを感じていたのではないでしょうか。

これまでニコを世話してくださり、ニコを託してくださった田中さんに、わたしたちのこれまでを伝えたいと考えた子どもたちが、ニコという名前と小屋づくりについて発表し、全員でお礼の言葉を伝えました。田中さんは、次のようにお話してくださいました。「今の発表を聞いて、みんながすごくいっぱい考えて、勉強して、いっぱい努力してくれたんだなって、すごく安心しました。まだ小っちゃい赤ちゃん、子どもなので、一生懸命かわいがって、ニコを大きく育ててあげてください。よろしくお願いします」そうして、わたしたちのもとにニコを残し、お帰りになった田中さん。それを見送ったＭさんは、「田中さん行っちゃったんだよね。わたしたちだけでがんばらないと」と確かめるように言いました。

Ｍさんは、ヤギを飼うかどうかを学級で議論していた時、「わたしたちに飼えるのかな」と不安を抱きながら葛藤していた一人です。「みんなの話を聞いていたら、いつの間にか飼いたくなっていた」と、仲間の前向きな言葉によって自分の気持ちを固めていったＭさんでしたが、田中さんが去ったこの時に、本当にわたしたちが飼うのだということを自覚したのだと思います。きっと不安が高まったと思います。でも、気を引き締めている。そんなふうに見え、とてもたくましく思えました。Ｍさんはこのあと、ほうきを手に小屋のそうじを始めました。

この日から、わたしたちのくらしは一変しました。「ニコ、おはよう！」とランドセルを背負ったままニコの小屋へ入っていく朝。早速散歩へ出発！「めっちゃうんちしてる」「ぶどううんちあるな」と、そうじも開始。ニコと一緒の授業では、散歩、エサやり、小屋のアップデート。散歩するうちにニコの好きな葉っぱに気づき、葉っぱを集め始めた人たちは、葉っぱの正体を調べ、「オオバコ」と突き止め、発表し、さらにオオバコをたくさん集めています。獣医の佐藤先生のアドバイスをもとに、はかりを使って毎日のえさの量を決めました。グラムという単位、量感、「エサの入ったバケツの重さ－バケツの重さ＝エサの重さ」という計算に、「算数やったね」という子どもたち。どこからか脱走するニコの脱走経路に見当をつけて壁や柵を増やしたり、スロープをより安全にするために手すりをつけたりと、小屋はよりよくなっていきます。気温を測ったり、山羊の好きな草や有毒な草について調べてまとめたり、遊び場をつくろうとしたりしている姿もあります。そして昨日は、佐藤先生にニコのこと、獣医の仕事のことをたくさん聞きました。ニコと一緒の授業でなくても、ニコに目をやり、気にしています。休み時間もニコ。実習生が、「とくに休み時間の過ごし方が大きく変わったと思いました。ほとんどの子が何かしらニコのことをしているので」と言って、子どもたちの変化を語っていました。帰りには、小屋によって「バイバイ」「ニコまた明日」と声をかけていきます。少し心配そうにして、「ちゃんと小屋しめてね」「あとでしっかり見ておいてね」とわたしに声をかけていく人も。

ニコを中心として様々なかかわりが生まれています。学校を後にするその時まで、心のベクトルがニコに向いていることを感じています。ニコに始まり、ニコに終わる。そんなくらしになっている気がします。

2023.12

一人一人の内に起きていること

８月の終わりにニコがやってきて早２カ月。ニコとのくらしを始めてからほぼ毎日、「ニコといっしょ」という時間をつくってきました。この時間子どもたちは、ニコと散歩することや、ニコの食べるものについて調べたり集めたりすること、小屋のそうじや改良をすること等々、それぞれに自分のすることを決めて動いています。そのような中で、一人一人に働きかけがあり、受け取っていることがあるのだと感じています。今回は、振り返りの言葉から考えたことを書かせていただきます。

私は、さいしょ、きせい虫がニコのうんちに入っていないか見ました。けれど、今日はありませんでした。それか、あっても私がどんなのか分からないからかもしれません。私は、そうじをやってみたいなと思いました。どうしてかと言うと、きせい虫が入っているうんちを知りたいからです。
その後にニコのサラダ作りをしました。私は、さいしょみどり色だけで少なかったけれど、イヌタデを入れてきれいになりました。（Ａさん）

この日、ニコのうんちに白いものが混ざっていたということが話題になっていました。少量ということでわたしも確認できていませんでしたが、何人かが見たと言っていました。以前、佐藤先生が話していたことを思い出し、虫かもしれないと心配になっていた子どもたち。今後見つけたら報告し合うことを確認しました。
Ｋさんは、その白いうんちを知りたくなってそうじをしたということでした。その思いの裏には、自分も見てみたいと求める気持ちに加え、ニコを心配する心があったのではないかと思います。ニコの健康を思い、できることをしようとした一歩が、事実を確認したいという姿で表れていたのではないかと考えました。
また、ニコの好きな草を集めて、混ぜて、盛り付けてと楽しんでいるサラダづくりでは、Ａさんが色に着目して彩を豊かにすることを楽しんでいたことが分かりました。
（白いうんちについては、佐藤先生に相談した方がいいという声があり、聞いてみました。丁度、腰麻痺の予防接種（駆虫）の時期でもあり、佐藤先生が学校に来て様子を見てくださいました。白いうんちは見当たらず、心配ないだろうということでした。虫がひどい場合には、白いうんちが多く見られるそうです。駆虫もしていただき、一安心です）

ニコがいつものあそびみたいに、ミロと頭つきをしてて、びっくりした。あと、ニコから頭つきをしにいってすごかった。どうしてかというと、自分よりでかいヤギに頭つきをすることってすごいと思ったから。（Ｂさん）

「いつものあそびみたいに」とニコがミロに向かう様子を捉えているＢさん。ニコがミロへ頭突きすることにためらいがないことを感じ取っているのだと思います。また、Ｂさんが、ニコとミロのかかわりの様子を見る経験を積み重ねてきたのだろうと思いました。そして、自分より大きな相手に向かっていくニコのことを「すごい」と思ったＢさんは、その難しさを知っているのだと思います。もしかしたら、Ｂさん自身も大きな相手に向かおうとした経験があるのかもしれません。

よくニコとミロがずつきのように頭をぶつけあいっこします。なんでぶつけあいっこするのか知りたいです。（Ｃさん）

Ｃさんは、山羊が頭突きし合うことを不思議に思い、その翌日にはこう書いていました。

なんでか、ミロとニコがずつきをしているとき、ニコがしっぽをふる。なんで。（Ｃさん）

Ｃさんは、この日もニコとミロが頭突きし合う様子を見ていたのでしょう。しかし、この日は、しっぽをふっていることに注目したようです。前の日に不思議に思ったからこそ、頭突きをしている際のニコの体の動きに目が向いたのだと思います。しっぽの動きがニコの頭突きのわけを考える手がかりになると感じていたのかもしれません。Ｃさんの内で出来事がつながっていて、それを見る目が更新されていることを感じました。
一人一人の内に起きていることを、これからも見つめ、考えていきたいと思います。